

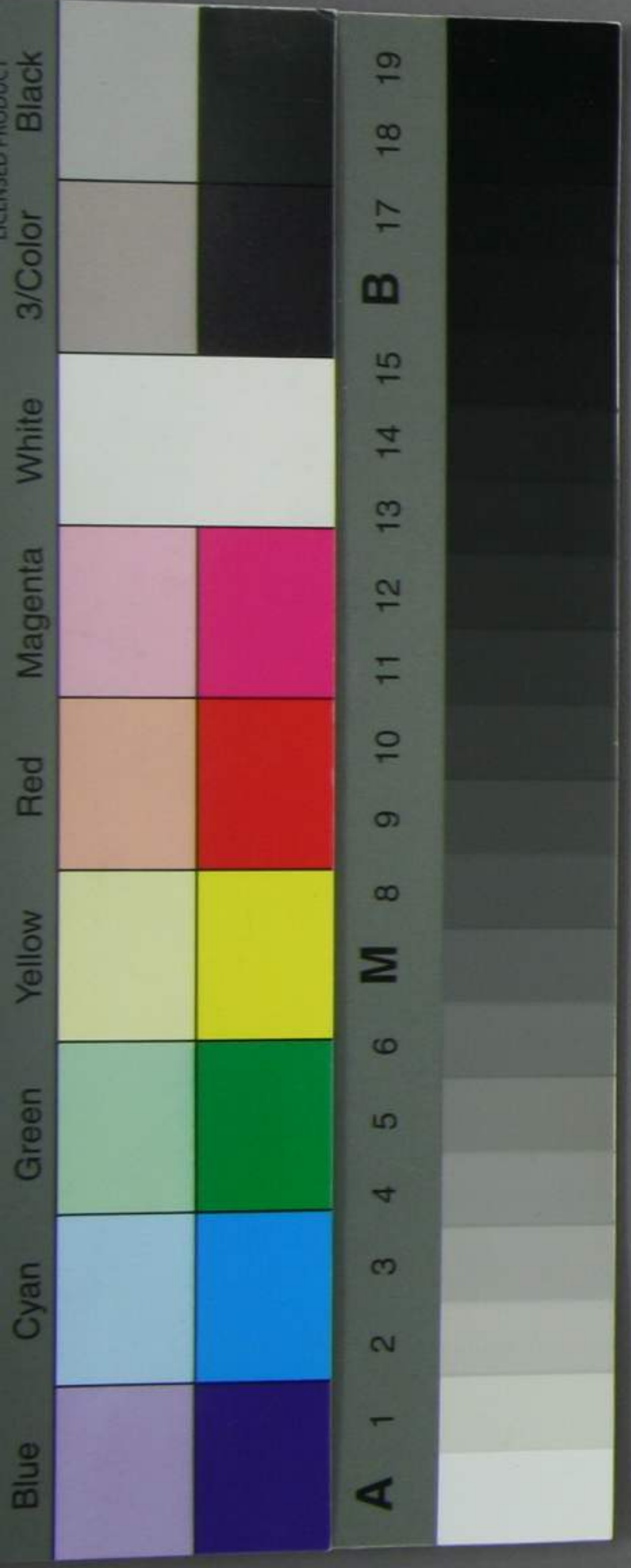
114  
A5069  
2

壬午八月廿七日大藏卿方下ル

外人内地雜居ニ付レヲスレル氏意見

居留外國人ヲシテ商業或ハ職務ニ従事ス  
ルカ為メ自由ニ日本ノ内地ニ入ラシムル  
ノ論ヲ考究スルニハ(第一)一般ノ論ト(第二)  
今日實際ノ形勢ニ於テ日本ニ其利害得失  
ノ如何トヲ以テスヘキナリ元來開化諸國  
ノ間ニ於テ彼我互ニ交通貿易ヲ為スノ  
自由アルハ現ニ万国公法ノ定理トスル所  
ニシテ即チ天理ニ順ビ各國ノ當ニ遵守ス  
ヘキ人道ノ義務ナリトスウツテル氏曰ク第  
十卷二章二人若天理ニ違ハサラントテ欲セ

A948(2)



ハ相互ニ通商ニ從事スルノ義務アリ人既  
ニ然レハ邦國ト雖モ亦此義務無カルヘカ  
ラスト又曰ク第一卷三十八章地球ハ造物主ガ  
總ヘテ人類共同ノ住所トナシ且ツ之ニ食  
物ノ供給ヲ以テシタル人類一般ノ所有タ  
レハ人皆共ニ此地球ニ居住シ生活ノ需要  
物ヲ之ニ取ルヘキ天賦ノ權利アリト  
然氏此人類普通ノ權利タルヤ固ヨリ不完  
全ナル權利ト称スル所ノ者ニシテ之ニ應  
スルノ義務ニ於テハ各政府ノ裁制隨意ニ  
在リ是ヲ以テ政府ニ於テ一般ニ外国人ノ  
其領土ニ入ルヲ禁スルモ又自國ノ便宜ニ  
由テハ或ハ特別ノ場合ニ之ヲ禁シ或ハ其

人ニ限テ之ヲ禁シ或ハ特別ノ旨趣ニ由リ  
或ハ特別ノ制限ヲ設ケテ之ヲ禁スルモ都  
テ妨々ナシトス然氏又ウワツテル氏ノ説ノ  
如ク凡ソ國守タルモノハ人道ノ義務ヲ尊  
崇シ戒慎ヲ以テ其君權ヲ施用セサルヘカ  
ラス故ニ同氏云ヘリ外国人ニテ正當ノ目  
的ヲ以テ内國ニ通行又ハ居住セントスル  
ルハ其國ノ君主ニ於テ特別緊要ノ理由ナ  
クシテハ安リニ之ヲ拒絶スルヲ得可ラス  
何トナルハ外國人ノ其内國ニ通行又ハ居  
住スルハ無害有益ノ事ニシテ天理ニ於テ  
國主之ヲ拒斥スルノ權利ナク若シ充分ノ  
理由ナク安ニ之ヲ拒斥スルハ則チ其義務

ヲ破リ不理ノ行ヲ為ス者ニシテ畢竟其外  
權ノ妄用ニ過キサレハナリトウワツテル氏  
又明言シテ曰ク宗教相同シカラサルノ故  
ヲ以テ外國人ヲ拒絶スル充分ノ理由ト為  
ス可カラズ宗教ノ異同ハ人道ノ権理ヲ褫  
奪スルニ非ルナリト  
是レ外國人ヲ内國ニ容ルルノ天理ヲ説ケル  
一般ノ論ナリ故ニ現今各國ニ於テハ皆此  
天理ヲ確守シ相互ニ自由完全ノ文際ヲ結  
ブノ即チ其義務タルヲ知ル可シ何トナレハ  
天理ノ國ニ於ルヤ人ニ於ルト異ナルト無  
ク均ク之ヲ守ルヘキノ義務アリ依テ人ノ相  
互ニ尽ス可キ所ノ義務ハ國ニ於テモ亦相

互ニ尽サ、ル可カラズ故ニ國ハ天理ニ於  
テ相互ニ人間社會ノ交際ヲナサ、ルヲ得  
サレハ其社會ノ安全便利ノ為メニ要スル  
所ノ義務ニ至テハ亦相互ノ間ニ遵守セサ  
ルヘカラス若何國ニテモ故意ヲ以テ人間  
社會ノ天理ニ戾ル事アレハ各國挙テ之ヲ  
慣習法ノ違反ト為ス、ミナラス又一般  
ノ安全便利ヲ妨害セル者トナサ、ルヘカ  
ラス

今歐米諸國ニ於テ商業ヲ營ミ職務ニ就キ  
若クハ居住ヲ占ムルカ如キ正當ノ目的ヲ  
以テ外國人ノ随意ニ其内地ニ入ルヲ許ス  
ハ畢竟前ニ述ヘタル一般ノ論ニ從フ者ナ

リ唯戦争ノ時ニ当テハ憤激ノ為ノ道理ヲ  
顧スシテ此例規ヲ破ルトアレハ是レ絶テ  
無クシテ僅ニ有ル所ナリ既ニ千八百七十  
年日佛戦争ノ時ニ當タリ佛國政府ハ其國  
内ニ居住シタル日人ヲ攘斥シタル日  
ニ於テハ其領内ノ佛人ヲ追逐セサリシヲ  
以テ當時ノ輿論ハ大ニ日國ノ措置ヲ稱セ  
リ是故ニ日國ハ大ニ閑譽ノ理ヲ固ク正  
義有徳ノ名ヲ博スルヲ得タルナリ  
然レハ今ヤ日本ニ於テモ其權利及ヒ時勢  
ノ要スル所ニ随テ外國ト貿易交通ノ親ヲ  
保續セント欲セハ宜シク他ノ開化諸國ノ  
慣習ト主義トニ成ルヘク反戾セシテ以

テ其聲譽ヲ失ハサランコトヲ務ムヘキナリ  
外國ニ於テハ固ヨリ当然ノ規則トナシ若  
シ之ヲ違犯スレハ忽チ人心ヲ激動シ争乱  
ヲモ挑発ス可キ事トナスニ由リ日本ニ於  
テモ極メテ緊要ノ理由ナクシテハ妄ニ之  
ヲ犯違セサルヲ以テ第一ノ義務トナサ、ル  
ヘカラス實ニ外國ニ於テハ自由ニ他國ニ  
入ルノ權利ヲ以テ恰モ外國公使カ享有ス  
ル犯スヘカラサルノ權利ト同視スルノ状  
アリ  
人ニセヨ國ニセヨ相互ニ同一ノ權利ヲ享  
有スレハ又其義務ヲモ同一ニ兼諾遵行ス  
ヘキハ固ヨリ然ラサルヲ得可カラズ今爰

ニ人アリ其權利ヲ享有スルカ爲メニ尽サ  
サルヘカラサルノ義務ヲ守ラズンハ誰カ  
其人ノ權利ニ對シテ信用ヲ置ク者アラシ  
ヤカルウオロ曰<sup>二</sup>第<sup>九</sup>卷<sup>七</sup>章<sup>一</sup>法律ハ都テ均一主  
義ニ基キ衆人ニ對シテ異同アルヘカラス  
ト蓋シ各國ノ徳義ニ由テ相結合スルヤ互  
ヒニ同等ニシテ均一ノ性質ヲ有スル者ナ  
ルニ由リ假令何國ニセヨ自國ヨリ讓与セ  
サル所ノ權利ヲ他國ニ對シテ要請スルヲ  
得可ラス但シ權利ト義務ハ物貨ノ如ク賣  
買交易スヘキ者ニ非ラサレハ何國ト雖モ  
其自國ノ要スヘキ權利ト自國ノ尽スヘキ  
義務トヲ随意ニ撰ムヲ得可ラサルナリ元

來權利ト義務トハ互ニ密着スル者ナレハ  
萬國公法ノ義務ヲ守ラサル國ニ於テハ萬  
國公法ノ權利アルトナシ故ニヘフトル氏曰  
一國孤立シテ他國ト交通セサル者ハ萬國  
公法ノ列ニ入ルヲ得ス故ニ何國ヲ論セス  
特別ノ理由ナクシテハ外國人民ノ其領土  
ニ入ルヲ拒ム能ハス若シ妄リニ之ヲ拒マ  
ハ歐羅巴諸國ニ於テハ之ヲ一ノ犯罪ト看  
做スヘシト但シ是レ他ノ萬國公法家ノ皆  
共ニ同意スル所ノ説ナリ  
上ニ述フル所ノ理由ニ據テ見レハ實ニ外  
國人ヲ日本ノ内地ニ容ルヲ許スト否ノ  
論ハ大ニ現今此國政事上ノ難事ト連接ス

ル者ト云フヘシ而メ此難事タルヤ若日本  
ニ於テ歐洲諸國ノ公論ノ徳義カヲ以テ輔  
翼セラルルヲ得ハ其困難大ニ減スヘク且  
日本ヨリ歐洲諸國ニ對シ我ハ都テ汝ノ萬  
國公法ニ於テ識認スル所ノ義務ヲ遵行ス  
ルニ汝何ノ故ヲ以テ公法上相当ノ權利ヲ  
我ニ許与セサル乎ト曰ハ、歐洲諸國ノ公  
論ハ必スヤ大ニ日本ノ利ニ傾向スヘキナ  
リ而ルニ今日ニ在テハ權利義務ノ互ニ均  
一ナラサルカ故ニ彼我ノ国益互ニ差異ア  
リ然ト虽氏若日本ニ於テ尚依然トシテ孤  
立ノ便益ヲ得ントセハ外國ニ於テモ亦其  
兵力ト權謀ヲ以テ現ニ收得セル特權ノ便

益ヲ保續スルヲ是トスルノ公論アルニ至  
ルヘキナリ  
故ニ余惟フニ日本ノ内地ヲ開テ外國人ノ  
移住ヲ許サハ外國政府ト虽氏徳義上ニ於  
テ日本ニ接遇スルノ其相互ニ接遇スルカ  
如クセサルヲ得サルヘキカ故ニ日本ノ国  
勢モ亦自ラ大ニ皇張スヘシ且ツ法律ノ定  
理ハ唐ニ徳義ニ基クノミナラス又財用ノ要  
務ニ基ク者ニシテ財用ノ要務ハ人々又ハ國  
々ノ間相互ノ助力ニ由テ生出スル者ナレハ  
歐米各國ニテハ既ニ數百年前ヨリ外國人ヲ内  
地ニ入レシカ為ニ国力ヲ増殖セルノ實ニ  
莫大ナリ又合衆國ノ如キハ其国力及開化

ノ進歩迅速ナリシハ概テ外国人ノ移住ニ  
是由ラサルハナシ且今日歐洲ニテ開化ノ  
上流ニ在ル獨逸英倫佛蘭西等ト虽モ其農  
工技藝學術ヨリ文武諸職業ニ至ル迄皆悉  
ク内外共同ノ結果ニシテ一國モ其進歩ヲ  
以テ偏ニ自國ノ勉力ナリト為スヲ得ヘキ  
者ハ曾テ之レアラサルナリ世間無数ノ創  
製物ハ外国人ノ輸入傳習スル所ニシテ各  
國皆常ニ外国人ノ勞力資本及ヒ智徳ノ勢  
力迄モ之ヲ使用スルカ故ニ歐洲列ル処ト  
シテ数千方ノ外国人農工其他各種ノ職業  
ニ從事セサルノ地ナク皆此ノ寛大ノ政畧  
ヲ以テ無量ノ便益ヲ得ルナリ故ニ日本ニ

ニ於テモ亦此政畧ヲ用レハ到底同一ノ  
果實ヲ結フハ必然ナレモ是事タル世人皆  
善ク知ル所ノ常事タルカ故ニ余ハ此論点  
ニ就テ唯日本政府カ改洲諸國ニ於テ徳義  
上及財用上最高尚ノ政理ニ從テ外国人ヲ  
其内國ニ入レタルノ政畧ヲ取用セサルハ  
カラサル者ヲ一言ニテ段落トナスヘシ  
唯爰ニ童子テ陳論スヘキ一事アリ此財用  
ノ交易ニ於テハ敢テ日本獨リ其便益ヲ專  
ラニス可ラス日本人カ外国人ヨリ農工商  
ノ術業ヲ学ハサルハカテサルハ固ヨリナ  
リト虽モ外国人モ亦必ス日本人ヨリ学フ  
所ノ事アル可シ殊ニ外國ノ交際愈親密ナ

ルニ隨テ日本ノ藝術ニ業尚能ク世間ノ知  
ル所ト為ルニ至ラハ其事倍ニ乏レアルハ  
シ然ル片ハ外國ニ於テ日本ノ物産ヲ要ス  
ルト或ハ日本ニ於テ外國ノ物産ヲ要スル  
ヨリモ却テ多キニ至ルヤ疑ナシ現ニ今日  
本物産ノ輸出ハ外國物品ノ輸入ニ比スレ  
ハ其増加ノ割合多キニ居ルヲ視レハ外國  
ニ於テハ自國ノ物産ヲ日本ニ輸入スル  
ヨリハ日本ノ物産ヲ輸出スルト尚利アリ  
ト為ルカ如シ是ヲ以テ若シ日本ニテ外  
國人ヲ内地ニ入ルニ至ラハ日本ノ物産  
乏レカ為メニ増殖シ輸出モ亦隨テ倍蕪ス  
ハケレハ外國ニテ日本ノ通商ヨリ得ル所

ノ便益大ニ増加スヘシ而ルニ若シ日本ニ  
於テ尚内地ヲ開カスニハ外國人ノ目ヨリ  
之ヲ觀萬國公法ノ理ニ拠テ之ヲ判スルニ  
不正ノ計策トナサルヲ得ス然レハ不当  
ナルカ如キモ外國政府モ亦此計策ニ應ス  
ルカ為メニ利己ノ政畧ヲ施スハ必定ナル  
ヘシ  
余又一步ヲ進ニテ日本ハ果シテ政米諸國  
ノ政畧ヲ取用スル能ハサルカ如キノ実況  
アルカラ考究スヘシ余ヲ以テ之ヲ視レハ  
決テ此ノ如キ実況アリト考フル能ハス從  
來外國人ヲ僅カニ數ケ所ノ開港場ニ住セ  
シムルニ現ニ其ノ日本ノ利益ハナラサル



ラ以テ若シ日本ノ全国ヲ開テ自由ニ外國  
人ヲ容ルニ至ラハ日本ノ不利益々加ハ  
ルノ恐レアリト為ヤリ故ニ余ハ決テ此ノ  
恐レナキ所以ヲ表示シ且日本ノ不利ハ及  
テ從來外國人ニ抑制ノ政畧ヲ施スニ在ル  
一ヲ辨明セントス  
抑日本ノ開港場ニアル外國人ハ大概皆商  
賈ノミニニシテ其賤本ヲ使用シ他國人ノ物  
産ヨリ利益ヲ収得スルヲ以テ營業ト為ス  
者ナリ而ルニ此ノ如ニシテ其利益ヲ得ル  
ヤ敢テ不正ノ所行ニ非ス又日本ノ為メニモ  
敢テ無益トナス可カラサルナリ何トナレ  
ハ商業ハ物産ノ價格ヲ騰貴シ輸出入アル

カ為メニ内國ノ商賣及物産モ亦隨テ進歩  
スレハナリ然モ外國商人ニ得ラル、所ノ  
利益ハ則チ日本ノ負債ト為リ日本ノ物産  
ハ右負債ノ利息モ同様ニ年々空シク外國  
人ノ掌中ニ落チテ日本ノ損失ヲ醸シ以テ  
富國ノ道立テ難キニ至ル然モ外國ノ通商  
ハ当初必ス此ノ如キ者ナレハ是決シテ尤  
ムルヲ得ヘカラス只其代リニハ日本ニ於テ  
外國ノ資本ヲ入レ又其良エヲ移シ以テ自  
國ノ物産ヲ繁殖スヘキナリ而ルニ此資本ト  
良エヲ日本ニ入レレニハ内地ヲ開クニア  
ラサレハ能ハス何トナレハ現今數ヶ所ノ  
港ニアル外國人ハ通商ノ為メニ移住スル

者ノミナレハ外国ノ職人又其他ノ商  
 業者ニ至テハ此等ノ商人ニ就テ各自ノ職  
 務ヲ得ル能ハサルカ故ニ彼輩ノ此國ニ未  
 航スル者殆ト稀ナリ然レモ若シ外國人ヲ内  
 地ニ容ルニ至テハ皆各容易ニ肝要ノ職  
 業ニ就ラ得テ隨テ内國ノ物産工藝及政府  
 ノ財源ヲモ増殖スルニ大ニ輔益アルヘキ  
 ナリ  
 従来開港場ノ外國人ハ大概高買ノミナル  
 ラ以テ外國政府ノ之カ為メニ保護スル所  
 ハ唯ニ通商ノ利益ノミニ止マレリ抑商人  
 ナル者ハ最私利ニ汲々シ其本務トスル所  
 ハ利ヲ得ルニ在リテ正道德義ノ大理ニ傾

着セサルヲ常トス故ニ外國ノ政畧ニ於テ  
 モ亦高買ノ如ク利己ノ性質ヲ帯ヒ人生ノ  
 高尚ナル利害ニ至テハ深ク注意スルヲナ  
 ケレハ外國公使ノ所説ハ則其自國商人ノ  
 意ナルノミ若シ其ノ保護スル所高買ノ利  
 益ノミニ止マラスシハ安ソ夫レ此ノ如ク  
 ナラシヤ且傳教師ノ如キモ其勢力ヲ自國  
 ノ政畧上ニ施及スル者多シト雖モ經濟上  
 ノ利益ヲ主トスルハ今日一般ノ通情ナル  
 ラ以テ其勢力ハ稍微弱ニシテ通徹スルヲ  
 得可ラス故ニ今若シ外國人ヲ日本ノ内地  
 ニ入ルニ至ラハ經濟上及物産上ニ於テ  
 モ別ニ又外國ノ為メ利益ヲ生出ス

ルヨリシテ商利ノミヨリ是ヲ以テ外国人ノ移  
 自ラ消滅ニ属スルハ是ヲ以テ外国人ノ移  
 住就業ノ自由ヲ許スハ今日日本政府ノ要  
 務ニシテ外国ノ利益モ此政畧ニ由テ以テ  
 増殖シ其利益又廣ク衆ニ及フヘキカ故ニ  
 日本ヲ以テ是迄ノ如ク唯其国人ト公益ヲ  
 共ニセサル商賈等ニ利ヲ得ルノ場所ト  
 看做サ、ルニ至ルヘキナリ  
 且ツ是ノ政畧ハ中外不和ノ時ニ當リテモ  
 亦至大ノ効用アルヘシ現今ノ状態ニテハ  
 外国人ハ唯救ケ所ノ海港ニ居留スル  
 ニ由リ萬一事起ルモ容易ニ自国海軍ノ保  
 護ヲ受ケ其賤本及物呂ハ如キハ忽チ之ヲ

船中ニ運出シ一時其難ヲ避ルヲ得ルカ故  
 ニ假令日本ト外国ノ交際破ル、トアリト  
 モ深ク之ヲ恐レス且商人輩ハ常ニ他国ノ  
 人民ト尺外面ノ関係ヲ有スルニ止マルヲ  
 以テリノ居留ノ国ヲ去ルハ容易ノ事ナリ  
 然ルモ若シ之ニ内地ノ居住ヲ許ガニ至ラ  
 ば其交際ハ親睦ニ赴キ彼我ノ間利益ノ関  
 係モ亦深切ニ至リ僻隅ノミニ居住セサレ  
 ハ其利益ノ関係モ必ス外面ノミニ限ラサ  
 ルヘク然ル片ハ外国政府ニ於テモ日本ト  
 ノ交誼ヲ破リ日本ノ実益ヲ害スル如キハ  
 甚ク其容易ニス可ラサルヲ知ルヘシ實ニ  
 現時ノ景況ノ如ク外国ノ利害唯商業ノ

一事ニ止マルニ於テハ日本ノ民安ハ勤モ  
スレハ外国ノ懲情ノ為ニ害セラル、  
ラントスモ若シ外国於テ輕忽ニ事ヲ起  
スラ得サルニ至ラハ及テ謹慎ヲ以テ日本  
ニ交リ深ク其実益ヲ注意ス可キハ固ヨリ  
論ヲ俟タサルナリ  
外國ヲミテ邊隅數々、海港ニ聚合セシ  
ムルハ日本人トノ交際ニ於テ反テ彼ニ勢  
カラ有セシムルノ基ニテ則日本人ト分  
離シテ自ラ一社會ヲ為シ其一社會タルノ  
特權ヲ要請シ施用スルニ至ラシムル所以  
ナリ特ニ彼輩ハ多分皆商人ナレハ其職業  
ノ性質ニ由リ遊樂ノ為ニ非サレハ敢テ内

地人民ト混同スルノ由縁ナキ者ノ此ノ  
如キヲ以テ此國ニ在テ此國ノ人民トハ政  
治上全ク分離シ例ハ横濱ノ如キハ殆ト  
日本国内ノ英領殖民地トモ云フヘキカ如  
クニシテ諒港ノ外国人ハ自己ノ法律アリ  
自己ノ官吏アリ自己ノ金錢アリ銀行アリ  
郵便局アリ外国人ノ特權特許悉ク備ハラ  
サルハナキナリ元來民衆アレハ政府ナカ  
ルヘカラス民衆ナケレハ又政府アルコト  
シ畢竟英國公使ヲシテ政治上ノ事ニ交渉  
スルノ口實アラシムルモ主トシテ横濱ノ  
如キ外国人聚合地アルニ是レ由ルナリ  
今若シ横濱ノ外国人ニテ日本ノ各地ニ

散在セシハ英國ノ口實ハ忽テ有失スヘシ  
 シ尤モ決メ横濱居留地ヲ解散スヘシト  
 云フニハハラス唯數ヶ所ノ土地ハ外國人  
 ノ多衆ヲ聚合スルノ勢ヲ預防スルハ日本  
 人民ノ當ニ至要ノ事タルヲ論スルハ三  
 而モ此聚合ノ勢ヲ預防スルニハ唯外國人  
 ノ内地居住ヲ許スルニ事ニ在リ若シ然セ  
 スニハ他日横濱ノ日本ニ害アル猶香港ノ  
 支那ニ於ルカ如キアルヲ保ス可カラズ実  
 ニ恐ルヘキナリ  
 加之内地ヲ開テ外國人ヲ容ルレハ各國移  
 住人民ノ比例ニ多少ノ増減アルハ必然ナ  
 リ從來此國ニ居留ノ外國人ハ概テ皆商人

ノニ而モ英國ハ宇内ニ於テ最モ高賣ノ賤  
 本ニ富裕ナルカ故ニ外國人ノ日本ニ在ル  
 者モ英國人ヲ以テ多シトス然レ此國ニ於  
 テハ獨逸人以太利人ノ如キ尚他國ノ人民  
 ノ増殖セシトテ要スル軍勢ヲサルヘニ元  
 來獨以等ノ人民ハ英國人ノ如ク僱掠專取  
 事トスル者ニアラステ其賤本ニ亦寡  
 少ナレハ多分此等ノ國ヨリハ有用有益ノ  
 職工人夫ヲ送致スヘク而ノ此ク如ク各國  
 人負ノ此則交換スルニ至レハ他ノ外國政  
 府ニ於テ亦必ス和親慈惠ノ志起テ起シ  
 テ日本ノ利益ヲ謀ルニ至ルヘキナリ  
 又日本ノ内地ヲ開テ事ハ外ニ裁判權ニ關

シテ更ニ旨要ノ閉繫アリト云リ日本ノ状  
況今日ノ如キニハ此裁判推ノ廢棄ヲ望  
ム可ニス。且此外國公使ノ談話ヲ聞クニ  
決テ此裁判ヲ讓典スルノ意ナキニハ非  
ス唯日本ノ裁判法未タ歐洲人ニ適當セザ  
ルノ故ニ能ハサルナリト言ヘリト云フ蓋  
且此言ヤ大ニ其実ト過ヒ者アルヘシト且  
此實際ノ經驗ヲ以テスレハ此説ヲ排駁ス  
ルヲ得ヘキ者無ルヘキニ由リ公使ニシテ  
敢テ此言ヲ陳セザリシトモ云フ可ラス必  
竟外國公使ノ論ヲ未スハ日本ノ事情明ナ  
ラサルニ由ル者ニシテ善ク国情ノ世間ニ  
通知セラレザルニ於テハ公使ヲシテ其論

ヲ變更セシムルヲ能ハサルヘシ而シテ日本  
ノ制度ヲ瞭知セシメシニハ日本ヲ開テ之  
ヲ容ルニ若カサルナリ元來外國ニ於テ  
日本ノ裁判ヲ嫌厭スルヲ以テ名譽ト為シ  
得策ト為セルハ其人民ヨリハ却テ其政  
治及公使ニ於テ特ニ甚シトス然レ歐洲人  
亦此レノ自國憲法ヲ徒法ニ涉リ錯雜  
ニ失セルヲ患フルハ恰モ外國公使カ日本  
裁判法ノ確実ナラズシテ文典多キヲ患フ  
ルト一般ナリ現ニ歐洲ニ於テモ調訟ハ必  
ズ損ニテ來ストハ常ニ辯ノ如ク一人ノ言  
ヲ所ナリ故ニ若シ内國ニ居住スル所ノ外  
國人ヲシテ實地ニ日本裁判法ニ從ハシ

ムルニ至一ハ各国皆ツ、平玉ニ日本ノ裁  
判法ニ向テ患フ、所ノ當否如何ヲ判知ス  
ヘク、是ラ外テ今日日本政府ノ要ハ各国  
人ヲミテ之ヲ實驗セシメ、然ル后ヲ以テ開港場  
ノ治外法權ヲ論破スルニアリ、若シ日本ノ  
裁判法ニ據テ處置宜ヲ得ハ外国人ハ實際  
ノ經驗ニ由テ始メテ從來ノ非ヲ知り且ツ  
世萬国公法ノ本理ニ抵觸スルヲ信ルニ至  
ラハ復タ此特權ヲ保續スルノ口實無ルハ  
キナリ故ニ日本ノ裁判權ヲ以テ外国人ヲ  
内地ニ管轄スレハ外国ノ裁判權ハ必ス之  
ヲ破壊スルヲ得ヘシ、而シテ其良法ハ左ノ  
如クスルニ在ルヘシ

(才二) 此国ニアル外国人ハ開港場ニ於テ  
ハ域外人民タリ内地ニ於テハ所屬人民  
タル兩様ノ性質ヲ有スルヲ得サルノ制  
ヲ設ケ開港場ニ住居スル外国人ニシテ  
自身又ハ代人ヲ以テ内地ニ支店ヲ設ク  
ルハ片ハ其外国人ハ開港場ニ於テ亦全  
ク日本ノ裁判法ニ従ハルム可シ  
(才三) 情理裁判所ヲ設ケテ現今ノ領事裁  
判所ニ代、其職責ハ最初ノ程ハ天皇陛下  
ニ對シ忠節ヲ誓ヲ立テタル外国人ヲ過  
半ニ用ルニシ、此ノ如クヤハ、  
、裁判權ヲ恢復スルニ至ルニシ  
然レ日本ノ内地ヲ開クニ就テ外國ニ於テ

ハ其讓与ヲ内地ダケニ限リ開港場ニシテ  
 外国人ノ特權ハ高之ヲ固守スヘケシ、現  
 今ノ外國キ判法反テ勢カヲ加シテ、恐  
 レアリト云ヒ元ソ事勢カハ人ノ思想ヨ  
 リハ常ニ強大ナル者ナレハ若シ外國裁判  
 法ノ大体ニ於テ破ル、所アラハ其餘ハ終  
 ニ皆必ス崩潰スルニシテ且ツ事實ノ  
 勢、言論ヨリ強キカ故ニ事實ヲ以テ外國  
 ノ口實ニ抗抵スルハ日本ノ政畧ニ利アル  
 一キナリ

從前ノ開港場ノ外更ニ數ヶ所ノ新港ヲ開  
 ヲ氏全ク是昔時鎖國ノ政策ヲ保續スルニ  
 外ナラスシテ日本政府ノ為メ外交ノ徳義

ニ毫モ輔益スル所ナケレハ寧ロ日本ノ全  
 國ヲ開クノ可ナルニ若カサルナリ加之現  
 今ノ制度ニ隨テ中外ノ人民互ニ分離シテ  
 通商ニ從事スルハ今ノ開港場ノミニテ  
 既ニ充分ナレハ更ニ新港ヲ開クモ經濟上  
 方テハ格別ノ影響ナカルヘシ且日本ノ  
 主眼ハ他國ト對等ニ地位ニ立テ而シテ物  
 産開發ノ方法ヲ擴充スルニアレハ速ニ鎖  
 國ノ政畧ヲ抛却スルヲ良策トス若シ外國  
 交通ノ自由ヲ拒絶スレバ尚今日ノ如クナ  
 ラハ假令少シ交ノ為メニ更ニ二ヶ所ニ若クハ  
 多少ノ新港ヲ開クニ毫モ有益トナス可  
 カルナリ



歴史ヲ探スルニ領事裁判ハ中古ノ時代ニ  
 於テ東方ノ諸邦及歐洲各國ニ皆行ハレ  
 ル法ナリ也一ニハ當時封建制ノ行ハレタ  
 ルト又一ニハ外国人ノ拒作シテ各自ノ国  
 人ト交通セシメサルノ俗ナリシカ為メナ  
 リ外国人ニ於テハ特別ノ社會ヲ起立セサ  
 ル可カラサルカ故ニ悉特別ノ裁判權ヲ有  
 セラルヲ得カリシナリ然ルニ爾來封建制廢  
 セラルニ及テハ領事裁判法モ亦共ニ廢  
 セラレ内外人相互ニ親密ニ交接スルニ  
 至レリ之ニ由テ考レハ日本ニ於テモ亦當  
 ニ然ルヘキ理ナリ今ヤ封建既ニ廢セラレ  
 タレハ宜ク外国人ヲ許シテ内國ノ社會ニ

入ラレム一ニ蓋シ中外ノ裁判法ヲ合一ニ  
 スルハ法律ヲ合一ニスルニアリ法律ヲ合  
 一ニスルハ利害ヲ合一ニスルト義務及權  
 利ヲ均一ニスルトニアリ而テ如是クセシ  
 一ニハ唯往昔ノ鎖國策ヲ抛却シテ外国人ヲ  
 内地ニ入ルカ恰ニ政米諸國ニ於テ日本  
 人ヲ入ルカ如クナリ是故ニ  
 余ハ斷然日本ノ内地ヲ全ク開クヲ以テ日  
 本ノ大利益ナリト論決ス何トナレハ一ニ  
 ハ世界各國ノ皆承認シテ實行セル所ノ法  
 理ト人道ノ通理ニ違ハサルコト政界ノ宜  
 キヲ得タル者ト云フ一ク又ニハ日本ニ  
 於テ此政界ヲ施行スル所ハ財用及國政上

ニ多ク緊要ノ便益ヲ得殊ニ外国ノ特權ヲ  
減殺スルニ利アリハナリ